



わがチラ裏ブログより転載

<http://www.ma-2.com/blog1/>

ふちんかん

✿ 香住に行く 20140624

この日は平日。職場は期末テストの1日目だ。

今年から計画的に休みを取ってリフレッシュしようと思い立って、初めての実施した計画休日。さて、以前からドライブしたいと思っていたのだが、どこに行こうか。おりしも季節は梅雨のまただ中。

幸いなことに天気予報は雨ではない。天気図を見ると近畿地方の北側が大陸側の高気圧の圏内だったので、日本海側に行くことにした。

走り始めて、三田から舞鶴道・豊岡道を通るあいだに香住（香美町）に行くことに決定。八鹿の道の駅で情報を仕入れる。

その後、近くのGSで軽油を補給した際、スタンドのおじさんに燃費を聞かれる。「高速と郊外だと20くらいですね～」と答えたものの自分でも曖昧だったので、このあと自宅に戻るまで計測してみたら22.4km/lだった。ガソリンとの価格比を考えると、ガソリンなら25.6km/lということになる。定速走行が多く、エアコンも使わない・窓を開けないですむ気温で（空気抵抗が小さい）、エンジンも十分に暖まっているというディーゼルエンジンの性能が最高に生きる場面とはいえ、比較的大きな部類の乗用車としてはすばらしい燃費である。



さて第1の目的地は、村岡にある「味取の俵石」である。豊岡の玄武洞と同じく、玄武岩溶岩の柱状節理と板状節理が目当たりにできる。



つづいて香住へ。

むかし相棒殿と行った「三七十鮎」に行きたかったのだが、残念ながら定休日。

観光バス相手の海産物屋でカニ丼を食べる。まあカニは缶詰、大量に載っているカニ味噌だけが現地産とみた。



第3の目的地は餘部橋梁（今、餘部鉄橋と打ちかけたがコンクリート橋も鉄橋で良いのだろうか）。

もともとあった餘部鉄橋の横にコンクリート製の橋梁がかかっている。いままでの鉄橋が有名すぎるので、コンクリート製の素っ気ない構造を無粋とみるか機能的とみるか、意見の分かれるところだろう。私としては、もう少しデザイン的な側面も加味して欲しかったというのが実物を見ての感想だ。



もとの鉄橋は駅側3つを残して、観光施設〔空の駅〕として開放している。発想は良いのだが、いかに安全のため、せつかくの景色も鉄格子越しである。まるで檻に囲まれたようであり、〔空の…〕というには今ひとつ。写真は格子の間から撮れるので、まあきれいには写るのだが（右上・右下）、写真だけ見て現地に行ったら、かなりがっかりするだろう。



駅に向かう途中の坂道から分岐した道を上ると鉄道撮影ポイント。もちろん鉄道写真の撮影を行う。ちゃんと時刻表を持って来ているあたり、ここに来ることも



連載のページ

かなり想定していたということだ（→自分）。

左の海の鮮やかさを際立たせたくて、手前に木をシルエットで配置する構図を取ったが、ちょっとうるさかったようだ。素直に右下の構図で撮れば良かったと反省。

だんだん天気も良くなり、気温も 30 度近くになってきた。ただ風が強くないへん心地よい気候である。

最後に山陰海岸ジオパークを海から眺めるということで三姉妹船長として有名な遊覧観光船「かすみ丸」に乗ることに。

14:00 出港に合わせ、早めに船乗り場に行くが、平日なので予約客がおらず、現在乗客は私一人。このままでは出港しない（ペイできない）とのこと。とりあえず 14:00 前にもう一度来ることにして、近くの岡見公園へ。ここは陸繋島といい、3つの離島が、潮流で運ばれた砂で陸地とつながったものらしい。眺めが良い。



さて、13:50 再び船乗り場にやってきた。相変わらず客はゼロ。あきらめかけていたところに、マイクロバスのお年寄りグループ 11 名が颯爽と登場。救いの神である。



これで出航は確定。次にコースであるが、時間が異なる 3 つのコースがある。私としては名勝・鎧

ノ袖が見れる 2 コース（1 時間）か 3 コース（1 時間半）にしたかったのだが、お年寄りグループはかなりお酒も召されていて、トイレが不安だし、船酔いもイヤだということで 1 コース（30 分）の意見が優勢。あまり強く意見も言えないままお年寄りグループの要望通り 1 コースに行くことになった。まあ致し方なし。

結果としては、短時間ではあったものの、いろいろな岩石や海岸地形の学習となり、良い遊覧となった。船を操縦する女性も（3 姉妹にも二組あり、今日は初代船長、つまり年配の方）かなり学習しているようで、一般の奇岩や・何かに見立てた〇〇岩といった役に立たない知識の紹介は少なく、実に学術的にシフトしている案内であった。ジオパークとして指定されたことも影響しているのだろう。



左の二枚は、岩石の違いが色で分かる。どちらかが元々の地質に貫入してきた火成岩。右写真は海食洞。



左は大きな礫を含む火山岩。元々大きな礫岩層に溶岩がやってきて、大きな礫が残ったと思われる。

右は凝灰岩。比較的に柔らかいので、波打ち際が浸食されて凹んでいる。表面も風や波による浸食で削られ、中に含まれている礫が表面に表れている。

以上の記述は、おおむね船長の説明によるもの。普通の遊覧船とはかなり違うことが分かっていただけと思う。

15:00 前には港に戻り、18:00 には自宅に引き上げた。有意義な休日であった。

雨雲 20140823



今年の夏は、太平洋高気圧の勢力が弱いせいで、南の湿った空気が入り込みやすく、天気が悪い。集中豪雨などの被害も多発している。写真は8 / 23の朝の風景。4枚の写真から合成した150度のパノラマ写真。

右は大阪都心部の手前の伊丹市の対比を狙ったもの。





赤い青春18切符を買いに行く 20140706

夏の旅行の定番・青春18切符。32年前の発売開始からけっこう利用してきた切符だ。最近ほとんどが磁気切符ベースに印刷されたものだが、マルス機器の設置されていない一部の駅では、普通の紙ベースの切符（常備券）として発売されている。これが赤い紙なのでマニアの間では「赤い青春18切符」として人気がある。別に紙だからといって安いわけでも便利なわけでもないのだが、風情はある。

この切符を買いに車で厄神駅まで行ってきた。高速を利用して片道1時間。



無事に手に入れたのち、ついでに加古川の鉄橋で列車撮影。



さらに6年前に廃線になった三木鉄道（もと国鉄三木線）の三木駅付近を改修した三木鉄道記念公園に立ち寄る。

もともとあったレールを利用した遊歩道やレールサイクル（左側の白い部分）。ポイントのレールも、そのまま残してコンクリートやアスファルトで埋められていて、もう復活することはないのだというもの悲しさを感じさせる。



在りし日の国鉄三木線

十五夜は必ずしも満月ではない 20140909



月に叢雲

今年の中秋の名月（旧暦 8 月 15 日）は、満月から若干過ぎた状態でした。中秋の名月に限らず、十五夜が満月となるとは限りません。「旧暦の 15 日」とは、新月を迎える日を「1 日目」とした場合の「15 日目」です。

単純に考えれば満月になるような気もしますが…。

新月の定義として新月になる日（太陽と地球の直線上に月が入る日）を「1 日」としている、ここがポイントになります。

たとえば深夜 0 時過ぎに新月を迎えた場合、その日が「1 日」となり、その日の夕方に眺める月は（細くて見えませんが）、すでに新月ではありません。逆に深夜 0 時前に新月を迎えた場合は、その日が「1 日」となるわけですから、前例の場合とすでにほぼ 24 時間分の違いが表れてきます。

さらに新月から新月までの期間が 29.5 日であること、つまり新月から完全な満月までは約 14.8 日であって、1 日から 15 日までの時間差である 14 日間ではないことや、月の軌道が必ずしも真円ではないことなども加わって、「十五夜 = 満月」という図式は成立しないことも多いということなのです。



連載のページ